

8.子ども食堂でのふれあいがもたらす効果 大府子ども食堂ふれあい食堂

杉浦仁美

1.始めたきっかけ

水野商事株式会社大府給食センターが50周年を迎え、地域貢献として何かできないかと考えた。大府市は子育て支援都市でもあり、幼稚園から大学まで設置されている文教地区ということで子どもが多く、また、代表の水野尊之さんが元市議会議員であったこともあり、大府市を視察したところ、当時東京、大阪で活動が広まっていた子ども食堂をやってほしいという声が上がリ、2016年8月1日に食を通じて人と人とがふれあいがもてる“場”づくりを目的とし、設立された。

・母体…水野商事株式会社大府給食センター

2.これまでの開催日時、食事メニュー、食事以外のプログラム

メニューは水野さんのお姉さんが考えており、キャラクターに見立てたり、野菜が様々な形に切ってあったりと美味しいのはもちろんの事、見て楽しみながら食べることができる工夫もしている。また、アンケート用紙を配り、食べたいもののリクエストを書いてもらっていたが、子どもではなく親が書いていたり、お寿司や焼き肉など無理な要望も多かったため、第10回からアンケートを取るのをやめて、直接聞くことにした。それにより、参加している方たちとさらにコミュニケーションをとることもできる。

	開催日時	食事メニュー	レクリエーション
第1回	2016年10月15日	ハンバーグカレー	—
第2回	2016年11月19日	サンドウィッチ、野菜スープ、ミカン	ギター演奏、駒
第3回	2016年12月17日	ホワイトシチュー、唐揚げ、ミートボール、新米山形県産はえぬき、レタス、林檎、バナナ	デジタル紙芝居、手品、歌の合唱
第4回	2017年1月21日	オムライス、お雑煮、ミカン	大府市の歴史・民話展示、缶バッジづくり
第5回	2017年2月18日	鬼おにぎり、豚汁、まるまるコロケ、柚子大根、漬物	歴史、民話ゲーム、缶バッジづくり
第6回	2016年3月18日	いもかわうどん、おでん	いもかわうどんの歴史を知る、けん玉、駒、ウッドバーニング
第7回	2017年4月15日	いもかわうどん	いもかわうどん作り
第8回	2017年5月20日	鯉のぼりいなり、ミネストローネ、フルーツ、サラダ	スポーツレクリエーション、ラダー
第9回	2017年6月17日	チキンの照り焼き、ジャガイモのスープ、ひじきの煮物、キュウリとナスの酢もの、フルーツポンチ	創作紙芝居 マジックショー ハーモニカ、合唱
第10回	2017年7月15日	冷やし中華、麻婆茄子丼	創作紙芝居
第11回	2017年8月23日	とり天、ピーマンのサラダ、お豆腐とニラのおすまし、リゾット、デザート	ビンゴ大会
第12回	2017年9月16日	ひこにゃんカレー、サラダ、フルーツ	バランスボールエクササイズ
第13回	2017年10月21日	野菜バーグ、キノコの混ぜご飯、カブのお味噌汁	ハロウィングッズ工作
第14回	2017年11月18日	トルコライス、コーンポタージュ、フルーツ	ふるさとガイド大府さんによる大府の魅力を知りに各名所を歩く
第15回	2017年12月16日	ミートローフ、ジャガイモとコーンのスープ、卵チャーハン、ひじきの煮物、フルーツミックス、ミニカップケーキ	子ども向けの認知症講座

3. 参加者について

	子ども	大人	ボランティア	メディア、 記者
第1回				
第2回	7	9	6	
第3回	12	15	4	
第4回	13	12	5	
第5回	12	14	6	2
第6回	15	15	5	
第7回				
第8回	11	9	9	1
第9回	6	11	5	
第10回	11	7	8	
第11回	2	5	6	
第12回	6	8	6	
第13回	8	2	5	
第14回	6	9	13	
第15回	7	9	8	1

表 3 参加人数

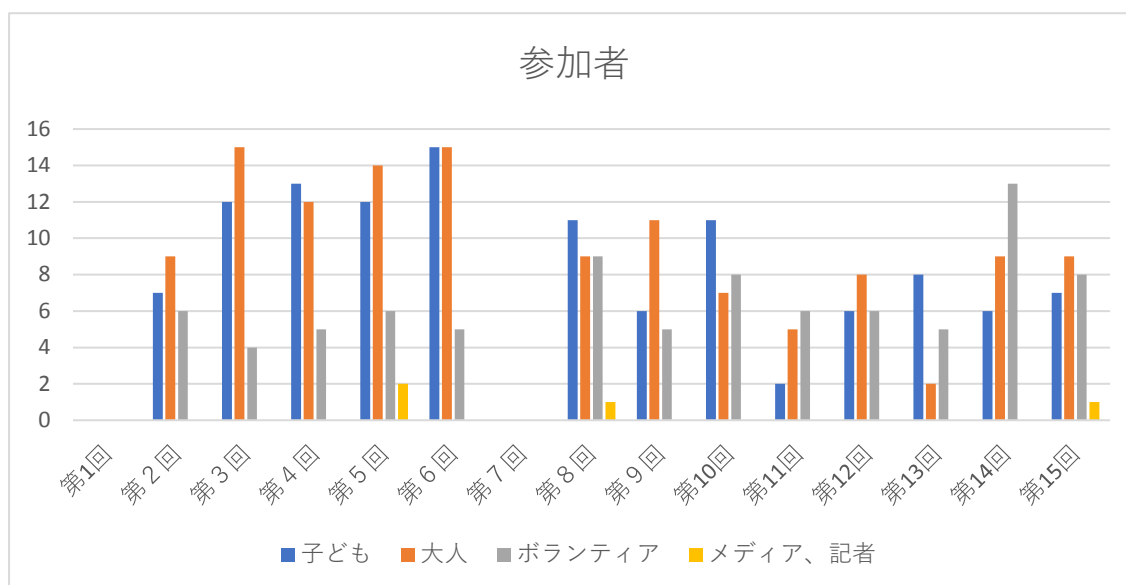


図 1 参加者数グラフ

4.参加者の主な居住地、学区

大府市、刈谷市（刈谷子育て応援団のアドバイザーを水野さんがしており、その SNS を通して子ども食堂を PR したところ、刈谷からの参加者も集う）

5.抱えている課題

まだまだ宣伝や告知が十分にできておらず認知度が低い。

行政、企業、団体とつながりを持ちたい

もし、食中毒などがした場合、個人の保障ができない、また給食センターの責任も問われてしまう。（大府子ども食堂は給食センターで作って持っているため）

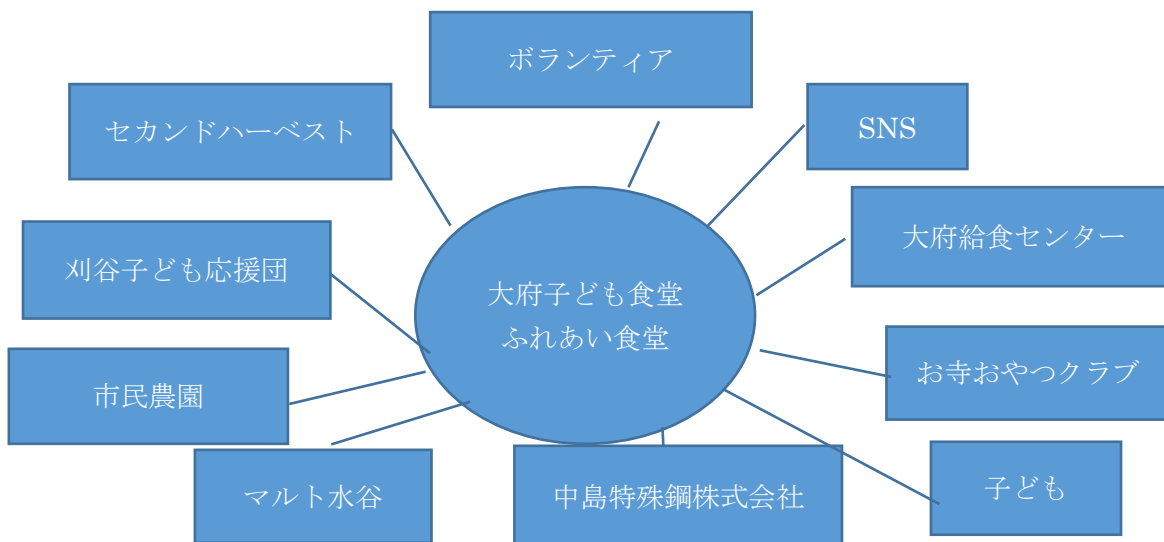
今の値段だと、赤字になってしまうため値上げをするかどうか。

6.課題を解決するために行っている取り組み

・知多の代表として子ども食堂の活動をもっと盛り上げるにはどうしたらいいか、まだ勉強不足なため、様々な子ども食堂に視察に行ったり、勉強会に参加している。

・スタッフの底上げ、意識改革

7.つながり



8.子ども食堂でのふれあいがもたらす効果

メディアなどを通じ、子ども食堂をやりたいと思う方は、年々増えており、今では、全国的な拡大をみせている。私が参加している大府子ども食堂は名前の中にもあるように、食を通してのふれあいを目的としている。その効果はどのような面で現れるのだろうか。

まず、子ども食堂は子どもの貧困があるのだと問題を知った人たちが、何かしたいという気持ちを持ち、実際にそれを子ども食堂という形で取り組んでいる。そして多くの子ども食堂は地域のボランティアによって担われている。ここから子ども食堂は小さい子どもからお年寄りのおばあちゃんおじいちゃんまでの幅広い年齢層が集うため、地域交流、異世代交流の場所となる。そのため、みんなで一緒にご飯を食べる楽しさを知ることができるだけでなく、箸の持ち方や食前に手を洗うこと、“いただきます”“ごちそうさま”など、食事におけるマナーを教えてもらうこともできる。また配膳、片付けを自分から手伝い、周りから褒められることによって子どもがこれは良いことと判断し、家でも実践できる力がつく。

また、私が考える、ふれあうことで一番得られる効果は、居場所として地域の中に子どもが頼れるつながりを作ることである。そもそも“ふれあい”という意味はウィキペディアによると、“地域社会内において、年代層や職業などが異なる人間が情緒的につながった関係を形成することを指す”とある。本来の意味通り、食を通して人と通じる。だれかと一緒にご飯を食べることは一番距離を近づけることができる方法だと私は思う。友達や恋人、家族など総じて一番時間を共にするのはご飯を食べるときである。その時間を一人で過ごすということ、それが当たり前だと思っている子どもがいることはとても悲しいことである。

子ども食堂はそんな子どもを一人でも減らせるよう、そして一人でも近くに頼れる大人がいる環境、地域になることが目的だと考える。

しかし、その分課題も多く抱えている。多くの子ども食堂は、貧困状態にある家庭の子どもが行くところというイメージがあるため、本当に支援を必要としている子どもたちが参加しづらくなる。そのため、目的をあまり強調しないようにして、誰しもが参加しやすい食堂づくりを目指している。が、そうなっていけばいくほど、多くの方が食事に来て、人・資金・物が不足する。さらに、その支援を必要にしている家庭に届いているのかもわからなくなる。子ども食堂の取り組みを継続していくことは、とても難しいのである。また、経済的に困難を抱えている家庭の子ども達の多くは、自己肯定感が上手く育っていないので、「今の自分が何も出来ていない」などと感じてしまい、居づらくなってしまう。

上記のように解決しなければならない課題はたくさん抱えている。まずは、ふれあい、多様性を受け入れることによって、子ども食堂が子どもの居場所として機能するのではないか。子ども食堂を理想に近づけていくのは、とても時間がかかるものである。まずは、子ども食堂にどんなかたちでもいいので参加してみて、さまざまなひとにふれあうことが必要である。そして、子どもの貧困問題意識を高めて欲しい。

引用先

<https://children.publishers.fm/article/12350/>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%B5%E3%82%8C%E3%81%82%E3%81%84>